

続・富山県民の笑いに対する意識調査

An Attitude Survey on Laughter of Toyama Prefectural People (Part2)

大谷 孝行

OTANI Takayuki

本研究は、筆者が2015年10月から2018年11月にかけて実施した笑いに関するアンケートの分析結果であり、前回実施した同様の調査（2013年9月～2015年2月）の続報である。「日頃笑うか」、「笑うためによく利用するもの」、「好きなお笑い芸人や喜劇俳優」、「笑いに対するイメージ」、「好きな笑いの分野」、「富山県民のノリ」、「最近の大笑い」についての調査を実施した。アンケート回答者のほとんどが富山県民であるため、本研究は富山県民の笑いに対する意識調査という意味を持つ。本研究と前回の調査とを比較しつつ、富山県民の笑いに対する意識を多方面から分析することが、本研究の目的である。

キーワード： 笑い、お笑い芸人、富山県民、ノリ

1. はじめに

本研究は、富山国際大学現代社会学部紀要第7巻に掲載された筆者の研究ノート「富山県民の笑いに対する意識調査」の、いわば続編である。筆者が2015年10月から2018年11月まで、主として富山県内で行った笑いについての講演の際に、講演に先立って、受講者に回答していただいたアンケート結果をまとめたものである。本研究で考察したアンケートの質問項目は、紀要第7巻に掲載したアンケート（以下、「前回の調査」と略記。）の質問項目をほぼ踏襲しているが、時代の流れにしたがって、質問内容を一部追加したところもある。

前回の調査（2013年9月から2015年2月までの実施）と今回の調査とを比較しつつ、富山県民の笑いに関する意識の現状を明らかにすることが本研究の目的である。その際、年齢、性別、出身地によって、笑いに関する要素に違いがあるのかについても併せて明らかにする。

2. アンケート概要

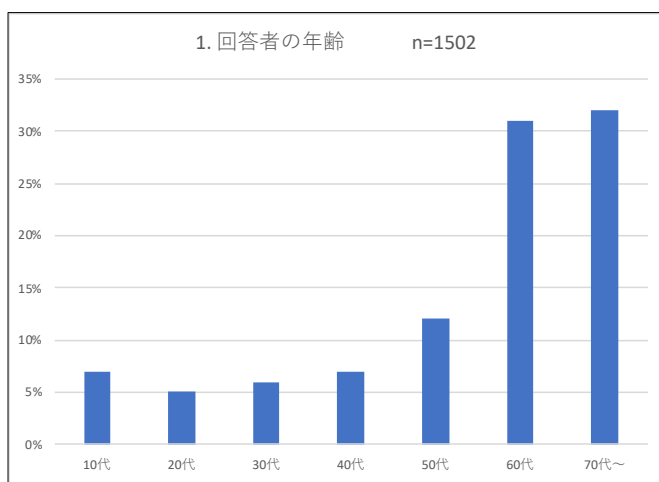
本研究は、筆者が2015年10月から2018年11月にかけて、富山県内を中心に行った笑いに関する講演の開始前に、受講者の皆さんに協力していただいたアンケートを分析したものである。有効回答数は1502であった。

筆者が行った講演の依頼元とアンケート実施日は以下の通りである。

今回の調査でも、筆者の講演の受講者が比較的高齢だったため、アンケート回答者もそのまま60代、70代以上がそれぞれ全体の約3割を占めているのが大きな特徴である。10代の回答者は、高校生を対象とした筆者の授業でアンケートに協力してもらった生徒たちである。

表1

年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代～
人数 (%)	99 (7%)	73 (5%)	96 (6%)	109 (7%)	177 (12%)	466 (31%)	482 (32%)

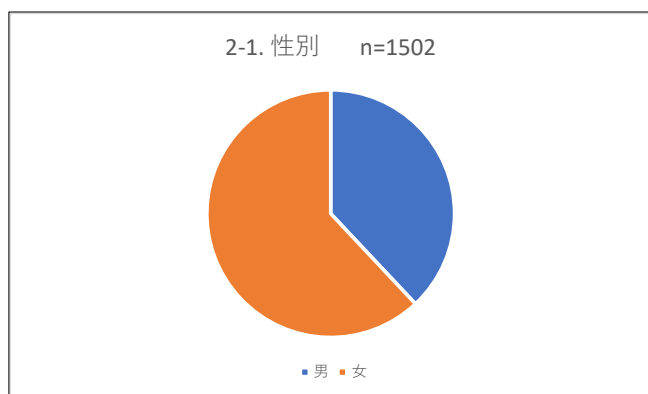


(2) 「性別」

性別は以下の通り、男女比はおおよそ4:6の割合で、女性の回答者が多い。前回の調査では、男女比が3:7だったので、今回は男性の占める割合が、約1割増加したことになる。

表 2-1

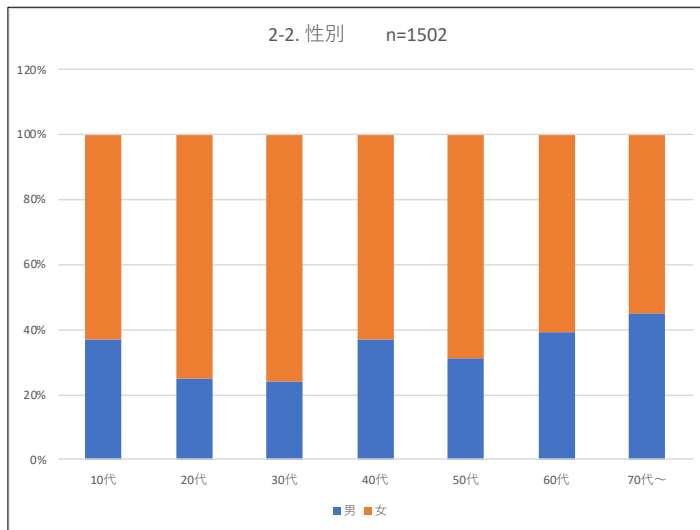
	男	女
人数	574 (38%)	928 (62%)



以下に、年代別の男女比の回答数を示す(表 2-2)。特に女性の占める割合が高かったのが20代と30代で、70代以上では男性が45%と、年代別では最も男性の占める割合が高かった。

表 2-2

	男	女
10代	37 (37%)	62 (63%)
20代	18 (25%)	55 (75%)
30代	23 (24%)	73 (76%)
40代	40 (37%)	69 (63%)
50代	55 (31%)	122 (69%)
60代	184 (39%)	282 (61%)
70代～	217 (45%)	265 (55%)

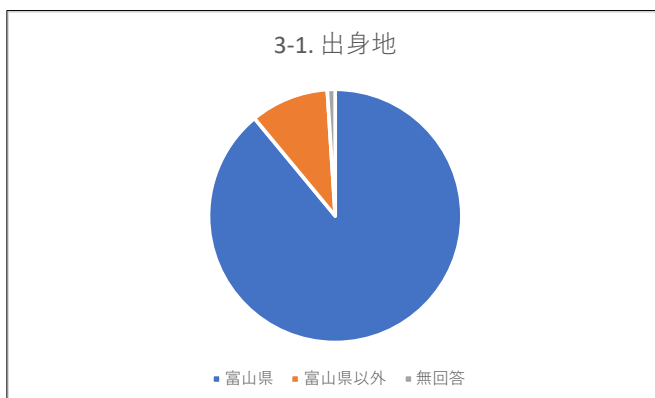


(3) 「出身地」

回答者の約9割は、以下に示すように富山県出身者である。

表 3-1

	富山県	富山県以外	無回答
人数 (%)	1344 (89%)	143 (10%)	15 (1%)



県外出身者 143 名の出身地の内訳は以下の通りである(五十音順、カッコ内の数字は人数)。

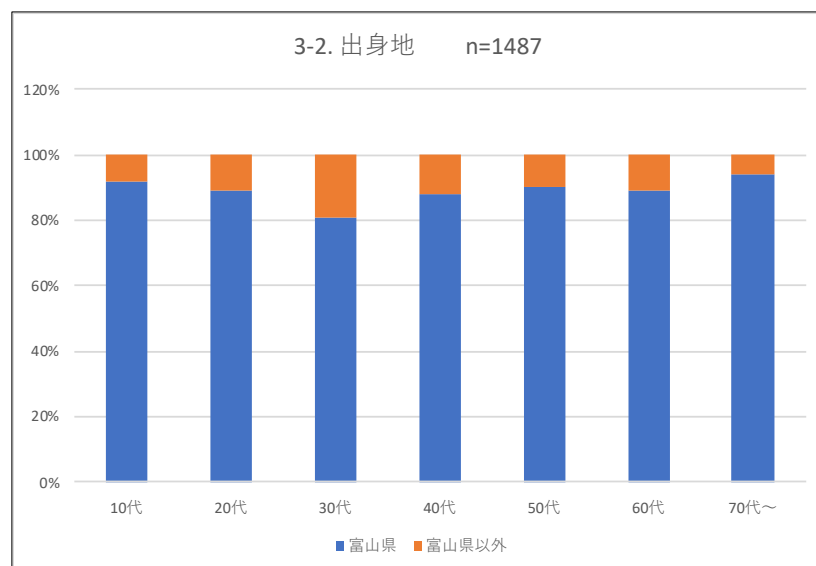
愛知県(5)、青森県(2)、秋田県(1)、石川県(20)、茨城県(1)、岩手県(3)、愛媛県(1)、大分県(2)、大阪府(4)、岡山県(1)、神奈川県(1)、岐阜県(7)、京都府(5)、群馬県(1)、埼玉県(3)、滋賀県(4)、静岡県(5)、千葉県(14)、東京都(10)、栃木県(1)、長崎県(1)、長野県(4)、新潟県(10)、兵庫県(3)、広島県(1)、福井県(7)、福岡県(1)、福島県(1)、北海道(13)、三重県(1)、宮城県(1)、宮崎県(1)、山形県(1)、和歌山県(1)、無記入(15)。その他として中国出身者が1名いた。

富山県の比較的近県である石川県、新潟県、福井県、岐阜県の回答数が多いのは当然として、千葉県の数値が比較的大きかったのは、千葉での講演の際にアンケートを実施したことによる。また、北海道と回答した13名のうち、60代が10名、70代以上が2名いた。

各年代別に出身地を表したのが以下の表3-2である。富山県出身者の割合は各年代で9割前後と高い数値だが、30代では81%と比較的低い数値であった。

表 3-2

	富山県	富山県以外
10代	91 (92%)	8 (8%)
20代	65 (89%)	8 (11%)
30代	78 (81%)	18 (19%)
40代	96 (88%)	13 (12%)
50代	159 (90%)	18 (10%)
60代	409 (89%)	52 (11%)
70代～	446 (94%)	26 (6%)

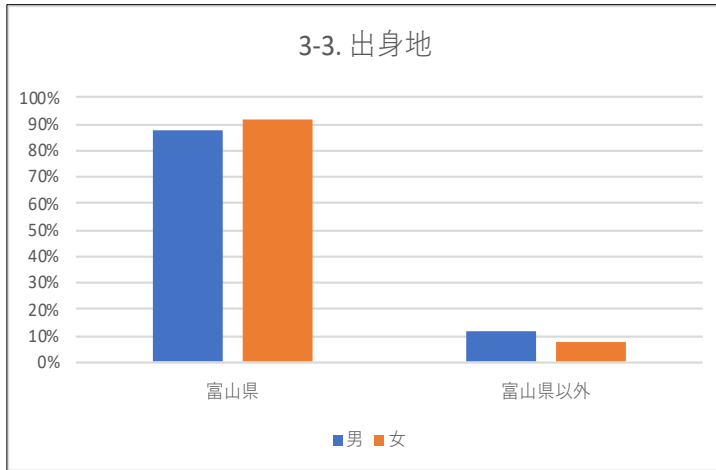


男女別に出身地を見ると、女性において富山県出身者が占める割合は、男性に比べて4ポイント高かった。

表 3-3

	富山県	富山県以外

男	88%	12%
女	92%	8%

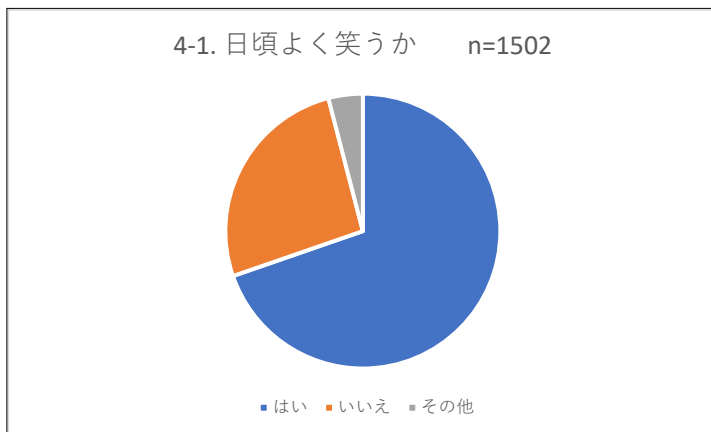


(4) 「日頃よく笑うか」

Q4「あなたは日頃、よく笑う方ですか」という質問に対する全体の回答結果が以下である。全体の約7割の回答者は、日頃よく笑うと回答しており、前回の調査の72%とあまり大きな差は見られなかった。

表 4-1

	はい	いいえ	その他
人数 (%)	1043 (69%)	394 (26%)	65 (4%)

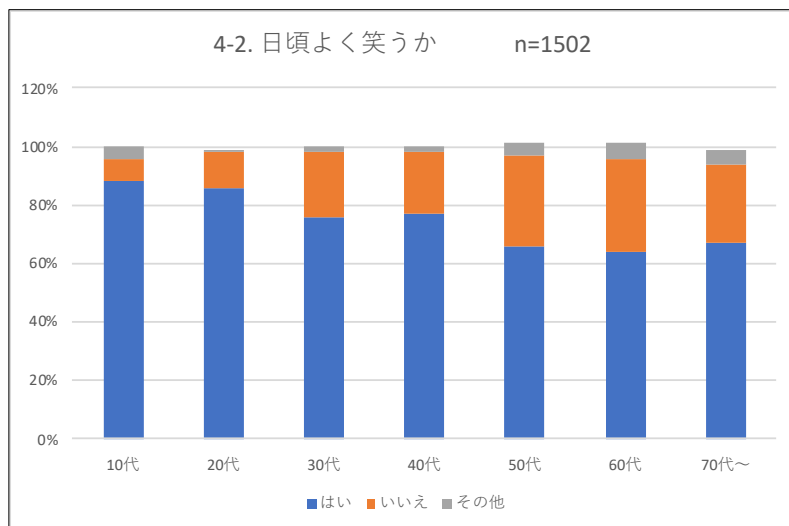


次に、各年代別で日頃よく笑うかを示したのが以下の表 4-2 である。10代で最も高く、年代が進むごとに数値が低くなる傾向がうかがえ、これは前回の調査と同じ結果となった。

表 4-2

	はい	いいえ	その他
10代	87 (88%)	8 (8%)	4 (4%)

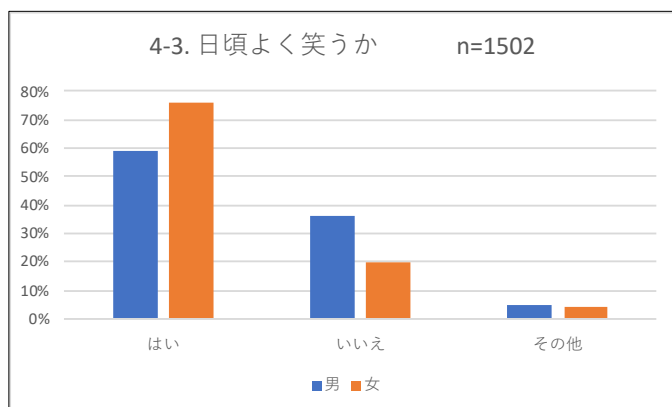
20代	63 (86%)	9 (12%)	1 (1%)
30代	73 (76%)	21 (22%)	2 (2%)
40代	84 (77%)	23 (21%)	2 (2%)
50代	116 (66%)	54 (31%)	7 (4%)
60代	296 (64%)	147 (32%)	23 (5%)
70代～	324 (67%)	132 (27%)	26 (5%)



日頃よく笑うかを男女別に表したのが以下の表 4-3 である。今回の調査でも、日頃よく笑うと回答した女性の割合が、男性よりも高い結果となった。前回の調査では 10 ポイントだった差が、今回では 17 ポイントと、さらに差が大きくなる結果となった。

表 4-3

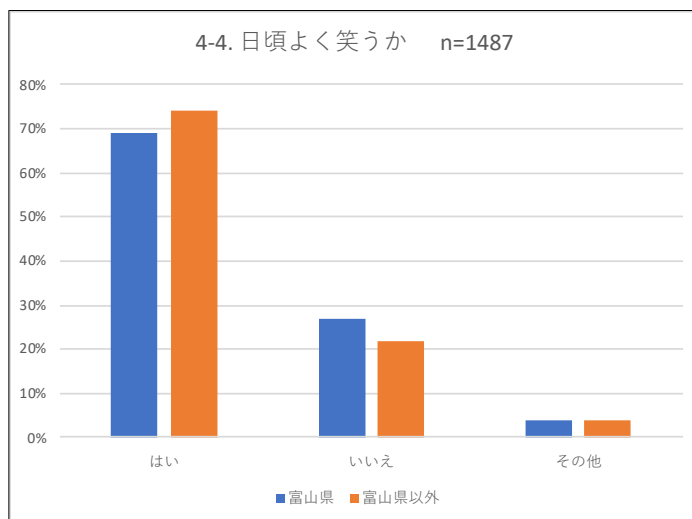
	はい	いいえ	その他
男	337 (59%)	207 (36%)	30 (5%)
女	706 (76%)	187 (20%)	35 (4%)



次に、日頃よく笑うかを、出身別に見たものが以下の表 4-4 である。富山県以外の出身地である回答数が多くないので確かなことは言えないが、富山県外出身者の方が、日頃よく笑うと回答している割合は、5ポイント高い結果となった。

表 4-4

	はい	いいえ	その他
富山県	929 (69%)	357 (27%)	58 (4%)
富山県以外	106 (74%)	31 (22%)	6 (4%)

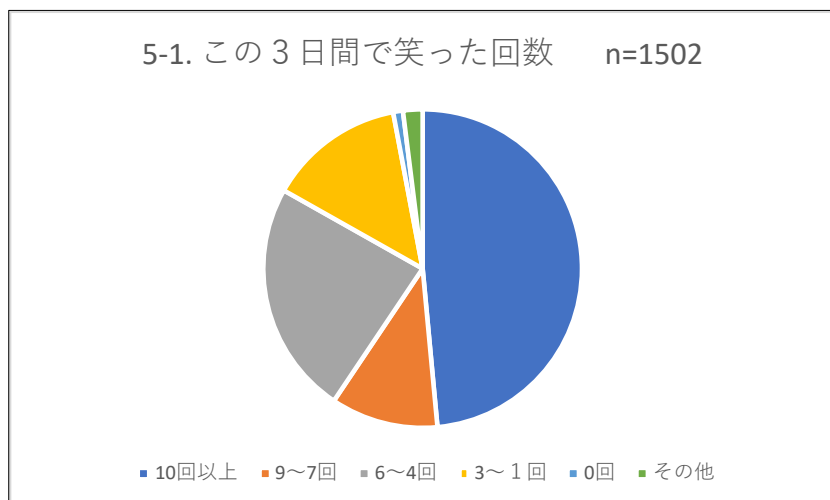


(5) 「この3日間で何回笑ったか」

Q5 「この3日間ほどの間で、あなたはだいたい何回ぐらい笑いましたか」という問いに対する全体の回答が以下である(表 5-1)。「その他」は、「無回答もしくは、わからない」という回答。10回以上笑ったと回答した人が最も多く、約5割を占めている。前回の調査では53%だったので、今回は4ポイント下がった。

表 5-1

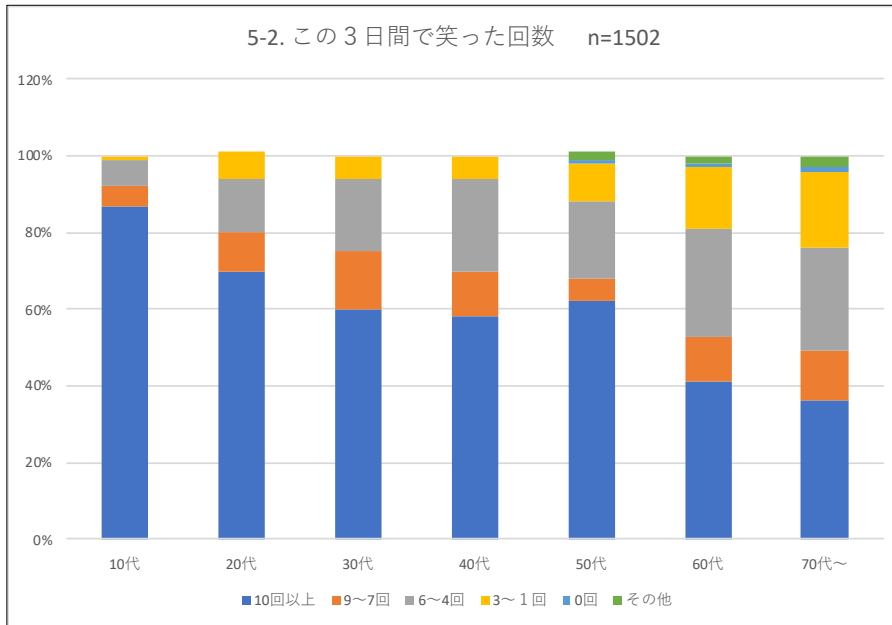
	10回以上	9~7回	6~4回	3~1回	0回	その他
人数 (%)	731 (49%)	167 (11%)	358 (24%)	209 (14%)	12 (1%)	25 (2%)



この3日間で笑った回数を、年代別に見たものが次の表 5-2 である。10回以上笑ったと回答した人の割合は、10代が非常に高く、年代が上がるにしたがって低くなっている。特に70代以上では36%と低く、これは前回の調査に比べても7ポイント下がった結果となっている。

表 5-2

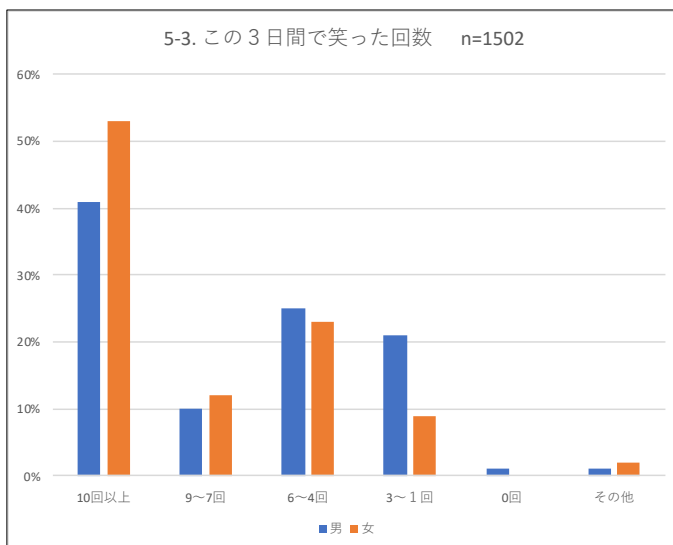
	10回以上	9~7回	6~4回	3~1回	0回	その他
10代	86 (87%)	5 (5%)	7 (7%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)
20代	51 (70%)	7 (10%)	10 (14%)	5 (7%)	0 (0%)	0 (0%)
30代	58 (60%)	14 (15%)	18 (19%)	6 (6%)	0 (0%)	0 (0%)
40代	63 (58%)	13 (12%)	26 (24%)	7 (6%)	0 (0%)	0 (0%)
50代	109 (62%)	10 (6%)	36 (20%)	18 (10%)	1 (1%)	3 (2%)
60代	191 (41%)	56 (12%)	130 (28%)	76 (16%)	4 (1%)	9 (2%)
70代~	173 (36%)	62 (13%)	131 (27%)	96 (20%)	7 (1%)	13 (3%)



次に、この3日間で笑った回数を男女別に見たものが以下の表5-3である。10回以上では、女性が男性よりも12ポイント高く、3~1回では男性が女性よりも12ポイント高くなっており、日頃女性の方が男性よりよく笑うという結果がここにも表れている。

表 5-3

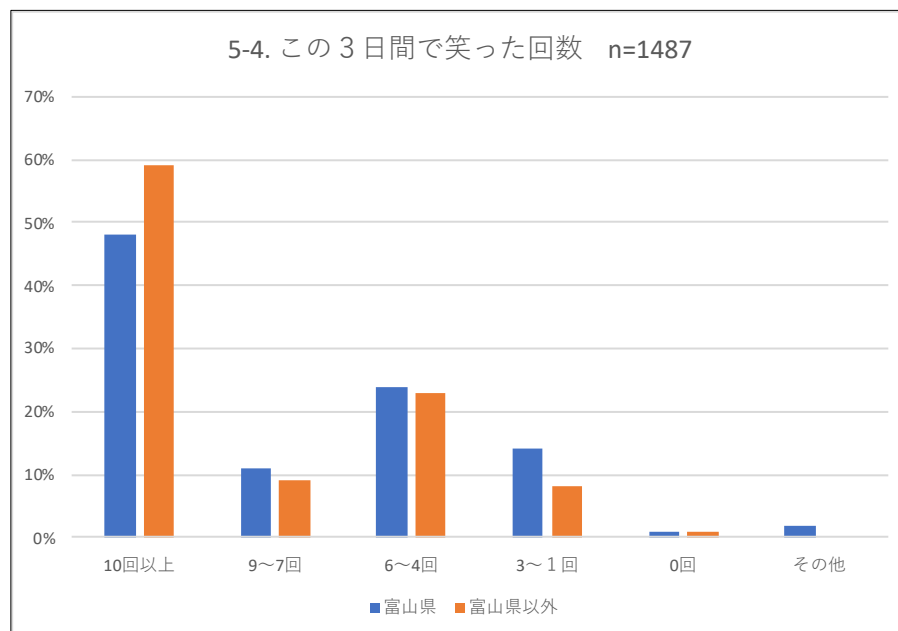
	10回以上	9~7回	6~4回	3~1回	0回	その他
男	235 (41%)	60 (10%)	143 (25%)	121 (21%)	8 (1%)	7 (1%)
女	496 (53%)	107 (12%)	215 (23%)	88 (9%)	4 (0%)	18 (2%)



次に、笑う回数を出身別に見た表が以下である(表5-4)。10回以上について、富山県以外の出身者が、富山県出身者に比べて11ポイント高いこと、3~1回について、富山県出身者が、富山県以外の出身者に比べて6ポイント高いことが特徴的である。

表 5-4

	10 回以上	9～7 回	6～4 回	3～1 回	0 回	その他
富山県	642 (48%)	152 (11%)	323 (24%)	191 (14%)	11 (1%)	25 (2%)
富山県以外	84 (59%)	13 (9%)	33 (23%)	12 (8%)	1 (1%)	0 (0%)



Q5の自由記述欄である「笑わなかった理由」を以下に挙げる。()内は回答数で、回答数の多いものから。同数の場合は五十音順。

楽しいことがない(9)、自分・家族が病気(3)、一人であることが多い(3)。

以下は回答数1名の回答である(五十音順)。

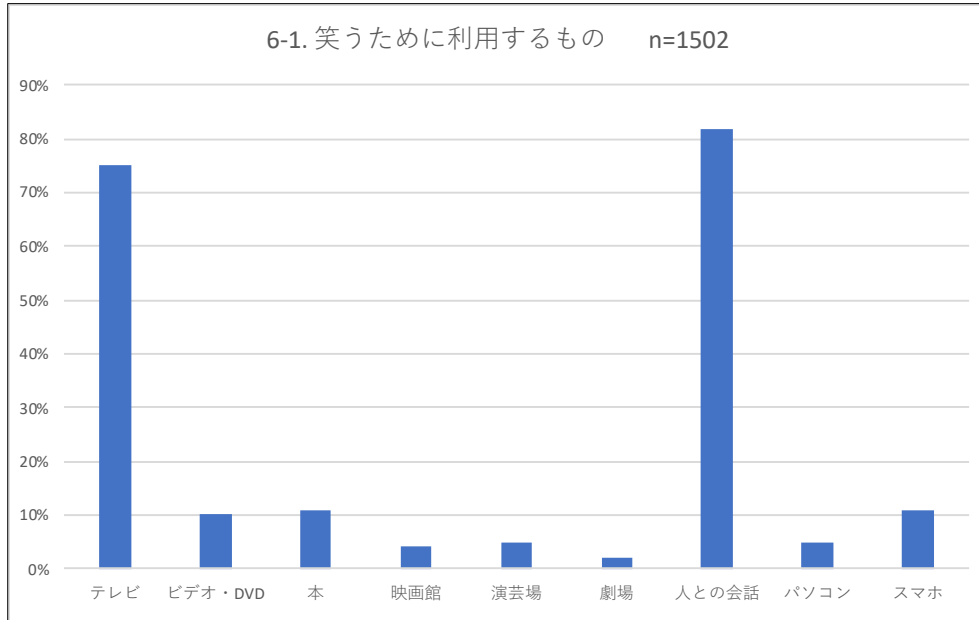
家族とけんか、心に差がある、仕事がうまくいかない、特に理由はない、人と話さない、二人暮らし、笑えない、笑える毎日を過ごしていない。

(6) 「笑うためにあなたがよく利用するもの」

Q6「笑うためにあなたがよく利用するもの」について、表6-1の9個の選択肢から選んでもらった(複数回答可能)。「人との会話」が最も多く、次に「テレビ」が75%と多い。この2つがこの順位で突出して高いことは前回の調査と同じだったが、「人との会話」は前回比4ポイント減、「テレビ」は前回比7ポイント増という結果になった。今回新たに選択肢として加えた「パソコン」と「スマホ」については、全体としては高くない結果となった。

表 6-1

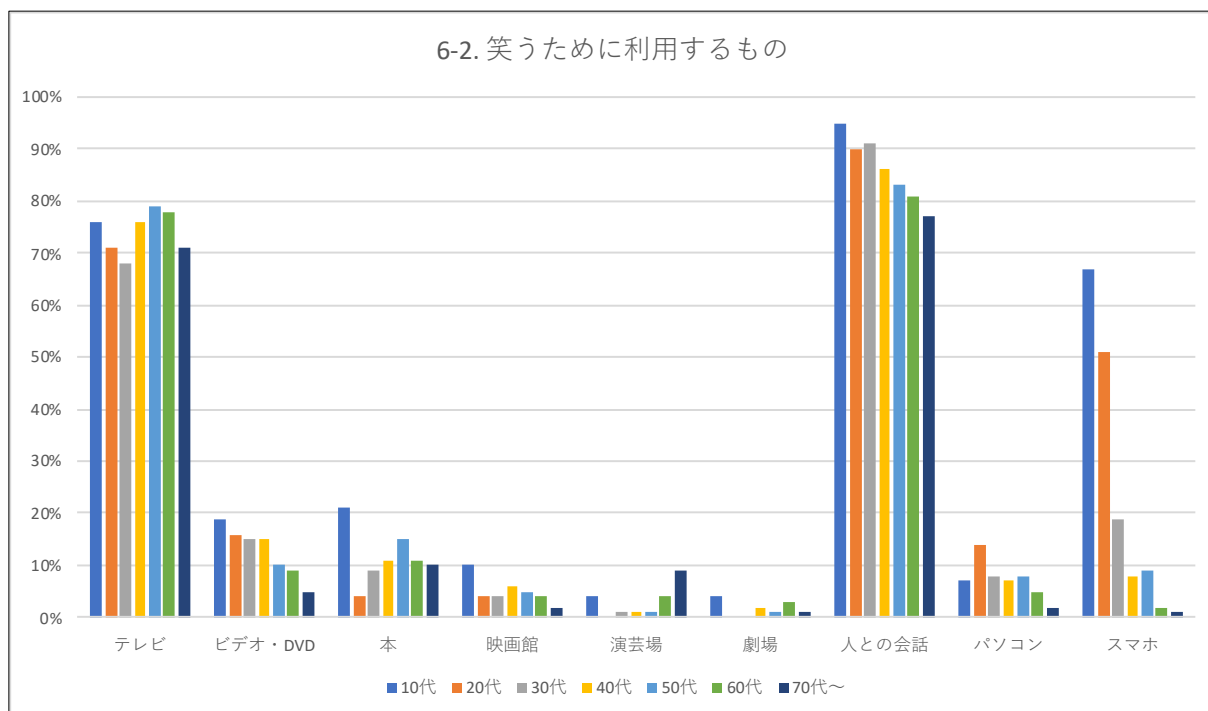
	テレビ	ビデオ・DVD	本	映画館	演芸場	劇場	人との会話	パソコン	スマホ
人数 (%)	1121 (75%)	143 (10%)	169 (11%)	63 (4%)	71 (5%)	26 (2%)	1235 (82%)	80 (5%)	160 (11%)



次に「笑うために利用するもの」を年代別に調べたものが以下である（表 6-2）。「人との会話」と「テレビ」は全年代において高い数値となっている。「スマホ」の利用は10代と20代で突出して高く、一方で「パソコン」の利用は全年代で高くないことがわかった。

表 6-2

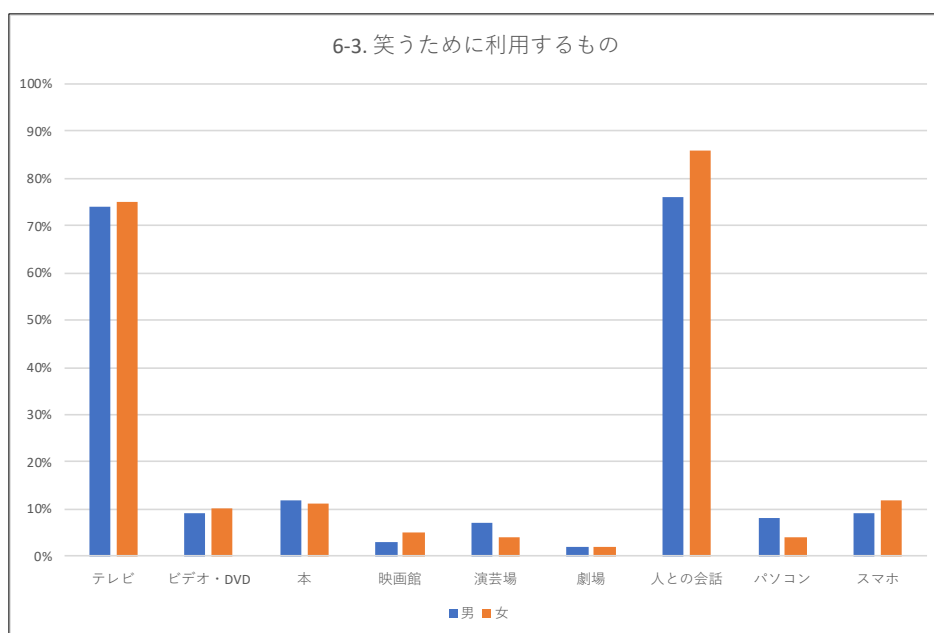
	テレビ	ビデオ・DVD	本	映画館	演芸場	劇場	人との会話	パソコン	スマホ
10代	75 (76%)	19 (19%)	21 (21%)	10 (10%)	4 (4%)	4 (4%)	94 (95%)	7 (7%)	66 (67%)
20代	52 (71%)	12 (16%)	3 (4%)	3 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	66 (90%)	10 (14%)	37 (51%)
30代	65 (68%)	14 (15%)	9 (9%)	4 (4%)	1 (1%)	0 (0%)	87 (91%)	8 (8%)	18 (19%)
40代	83 (76%)	16 (15%)	12 (11%)	7 (6%)	1 (1%)	2 (2%)	94 (86%)	8 (7%)	9 (8%)
50代	139 (79%)	18 (10%)	26 (15%)	9 (5%)	1 (1%)	1 (1%)	147 (83%)	15 (8%)	16 (9%)
60代	365 (78%)	41 (9%)	51 (11%)	20 (4%)	20 (4%)	12 (3%)	376 (81%)	22 (5%)	11 (2%)
70代～	342 (71%)	23 (5%)	47 (10%)	10 (2%)	44 (9%)	7 (1%)	371 (77%)	10 (2%)	3 (1%)



次に、男女別の結果を以下に示す(表 6-3)。「人との会話」では女性が男性よりも 10 ポイント高く、「パソコン」では男性が女性よりも 4 ポイント高い結果となっている。

表 6-3

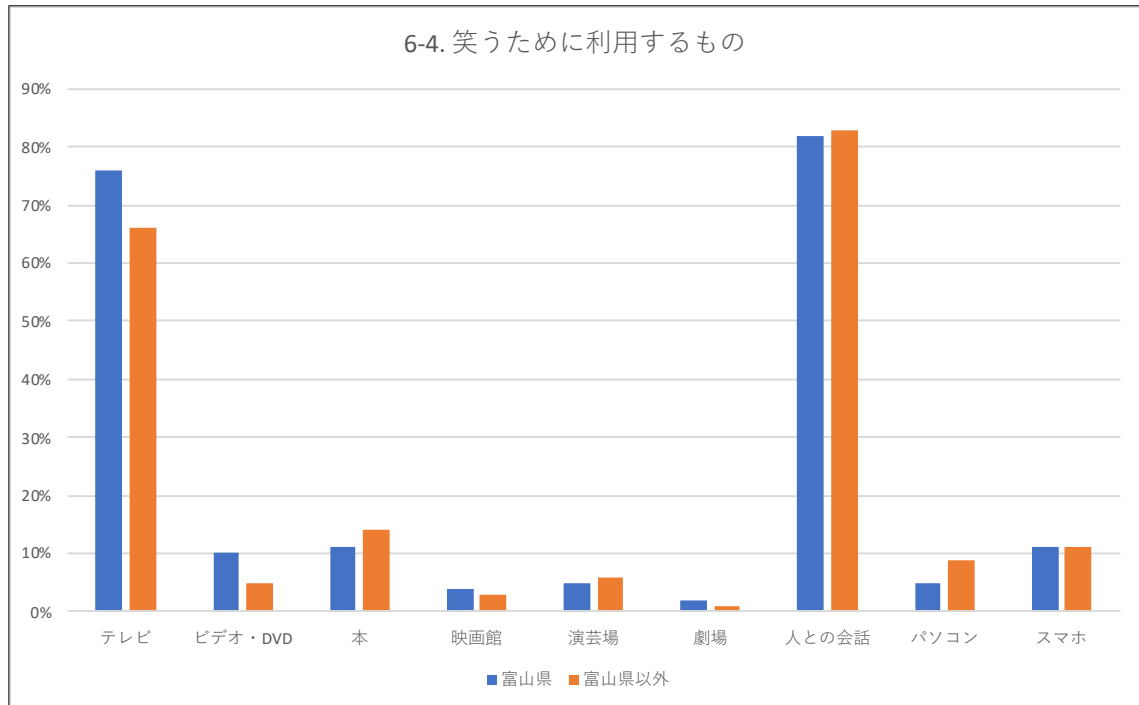
	テレビ	ビデオ・DVD	本	映画館	演芸場	劇場	人との会話	パソコン	スマホ
男	424 (74%)	49 (9%)	69 (12%)	18 (3%)	38 (7%)	9 (2%)	435 (76%)	44 (8%)	52 (9%)
女	697 (75%)	94 (10%)	100 (11%)	45 (5%)	33 (4%)	17 (2%)	800 (86%)	36 (4%)	108 (12%)



次に出身地にかかわる結果を以下に示す(表 6-4)。特徴的なのは、「テレビ」に関して富山県出身者が、県外出身者に比べて 10 ポイント高くなっている点である。

表 6-4

	テレビ	ビデオ・DVD	本	映画館	演芸場	劇場	人との会話	パソコン	スマホ
富山県	1017 (76%)	135 (10%)	148 (11%)	59 (4%)	63 (5%)	25 (2%)	1106 (82%)	67 (5%)	144 (11%)
富山県以外	94 (66%)	7 (5%)	20 (14%)	4 (3%)	8 (6%)	1 (1%)	119 (83%)	13 (9%)	16 (11%)



Q6「笑うためによく利用するもの」の自由記述欄として設けられた「その他」を以下に掲げる。()内は回答数で、回答数の多いものから。同数の場合は五十音順。

ラジオ(19)、孫との交流(14)、家族との交流(7)、ペット(7)、子どもとの交流(5)、新聞(4)、運動(3)、スポーツ(3)、アニメ(2)、携帯電話(2)、笑いヨガ(2)。ラジオ19名の年代の内訳は、30代2名、40代1名、50代1名、60代5名、70代9名だった。

以下は回答数1名の回答(五十音順)。

アイドル、歌、SNS、鏡、コンサート、サークル、酒席・パーティー・食事会、タブレット、テレビ電話、動画サイト、猫、ボランティア、

(7)「好きなお笑い芸人や喜劇俳優」

自由記述としてのQ7「好きなお笑い芸人や喜劇俳優」は以下の通り。()内は回答数で、回答数の多いものから。複数回答可能。回答数が同数の場合は五十音順。下線は、前回の調査には名前がなく、今回の調査で2名以上の回答があった芸人や俳優。

明石家さんま(100)、立川志の輔(48)、笑点メンバー(37)、サンドウィッチマン(29)、笑福亭鶴瓶(23)、ダウンタウン(22)、タモリ(22)、綾小路きみまろ(21)、NON STYLE(19)、ビートたけし(19)、ブルゾンちえみ(18)、ナイツ(16)、出川哲朗(15)、中川家(15)、所ジョージ(13)、三遊亭円楽(11)、母心(11)、千鳥(10)、チャップリン(9)、アンジャッシュ(8)、オール阪神巨人(8)、トレンディエンジェル(8)、マツコデラックス(8)、宮川大助花子(8)、柴田理恵(7)、タカアンドトシ(7)、松本人志(7)、渥美清(6)、志村けん(6)、東京03(6)、萩本欽一(6)、吉本興業・吉本新喜劇メンバー(6)、秋山竜次(5)、アキラ100%(5)、陣内智則(5)、西田敏行(5)、久本雅美(5)、藤山直美(5)、渡辺直美(5)、桂文枝(三枝)(4)、さまぁ〜ず(4)、バナナマン(4)、林家木久扇(4)、宮川大輔(4)、山崎弘也(4)、横山やすし・西川きよし(4)、植木等(3)、内村光良(3)、桂文珍(3)、コロコロチキチキペッパーズ(3)、コント55号(3)、しゃべくり007のメンバー(3)、高田純次(3)、ナインティナイン(3)、博多華丸・大吉(3)、爆笑問題(3)、間寛平(3)、パンクブーブー(3)、ムロツヨシ(3)、森三中(3)、ゆりやんレトリィバァ(3)、横澤夏子(3)、笑い飯(3)、阿部サダヲ(2)、有田哲平(2)、有吉弘行(2)、いつもここから(2)、伊東四朗(2)、上田晋也(2)、榎本健一(2)、大泉洋(2)、オードリー(2)、岡村隆史(2)、桂歌丸(2)、桂米福(2)、宮藤官九郎(2)、くりいむしちゅー(2)、劇団ひとり(2)、小藪千豊(2)、コロッケ(2)、斎藤司(2)、三遊亭良楽(2)、シソンヌ(2)、笑福亭仁鶴(2)、すっちー(2)、立川談志(2)、チュートリアル(2)、テツ and トモ(2)、徳井義実(2)、とんねるず(2)、流れ星(2)、林家三平(2)、林家たい平(2)、ハライチ(2)、ピコ太郎(2)、ブラックマヨネーズ(2)、三波伸介(2)、ラーメンズ(2)、りゅうちえる(2)、ローワン・アトキンソン(Mr. ビーン)(2)、ロバート(2)。

以下、回答数1名を列記する。五十音順。

厚切りジェイソン、あばれる君、アンタッチャブル、石塚英彦、いとうあさこ、今田耕司、イモトアヤコ、内場勝則、内山信二、ウッチャンナンチャン、海原やすよ・ともこ、梅沢富美男、越中家漫飲丹、エディー・マーフィー、柄本明、太田光、オリエンタルラジオ、桂米朝、加藤茶、加藤諒、狩野英孝、カミナリ、川島明、完熟フレッシュ、キャイ〜ン、桐谷健太、銀シャリ、クマムシ、桑原和男、ケーシー高峰、河本準一、ゴー☆ジャス、小宮浩信(三四郎)、酒井藍、堺正章、坂上二郎、坂田利夫、さかなクン、さだまさし、佐藤二朗、サンシャイン池崎、三四郎、三遊亭小遊三、ジム・キャリー、ジャングルポケット、春風亭昇太、昭和のいるこいる、スピードワゴン、関根勤、そこまで言って委員会メンバー、高橋茂雄(サバンナ)、高原兄、竹山隆範、ダチョウ倶楽部、立川志らく、田中シングル、田中卓志、田中裕二、千原ジュニア、チョコレートプラネット、土田晃之、土屋賢二(哲学者)、天竺鼠、とにかく明るい安村、どぶろっく、ドリフターズ長江もみ、永野、南原清隆、ネプチューン、ノッチ、バイク川崎バイク、バカリズム、バスター・キートン、パッチアダムス、バットナイス常田、花紀京、ハリセンボン、ハロルド・ロイド、日村勇紀、平野ノラ、藤本敏史、藤山寛美、前川清(歌手)、ますだおかだ、三谷幸喜、村上ジョージ、室井滋、もう中学生、モンティパイソン、山田邦子、山田孝之、夢路いとし・喜味こいし、由利徹、吉田裕、ラバーガール、ロッチ。

(8) 「笑いは・・・」の「・・・」に真っ先に思いつく言葉

Q8 「笑いは・・・」の空所に入れる言葉を自由に記入してもらった。()は回答数で、回答数の多い順に記載。同数の場合は五十音順。

健康によい・健康の源(298)、元気(の源)(122)、幸せ(の源)(108)、心の栄養素・ビタミン(53)、楽しい・楽しくする(51)、人生(気持ち・周り)を明るくする(48)、福を呼ぶ(43)、ストレス解消(38)、心を豊かにする・心のうるおい・人生を豊かに(37)、エネルギー・力・生命力・命(36)、心がなごむ・心の癒し(35)、大切・必要(不可欠)(33)、薬・百薬の長(32)、長生きの秘訣(28)、笑顔(26)、素敵・すばらしい・一番(19)、心の健康(18)、人・人生・その人を表す(18)、コミュニケーション(16)、心のリフレッシュ・気分転換(11)、オアシス・楽園(10)、日常(9)、人とのつながり・人をつなぐ・縁(9)、潤滑油・生活の潤い(8)、おもしろい(7)、心(7)、心身の(健康の)バロメーター(7)、免疫力を高める(7)、若さを保つ(7)、嫌なことを忘れる(6)、宝(6)、脳の活性化(6)、人(・世界)を救う(6)、リラックス(6)、相手を笑顔に・伝染する(5)、神(様)(5)、人間関係をよくする(5)、ゆとり・余裕(5)、あたたかい・あたたかくする(4)、心の掃除・洗濯(4)、平和(4)、ボケ防止(4)、開放・解放(3)、家庭の平和(3)、心地よい(3)、人生の喜び(3)、人を育てる(3)、人を楽しくする(3)、(青)空(2)、(一生の・心の)友(2)、感謝(2)、自己表現(2)、(深)呼吸(2)、センス(2)、ツボ(2)、人情から(2)、は・は・は(2)、ユーモア(2)、笑い(2)。

以下は回答数が1名のもの。五十音順。

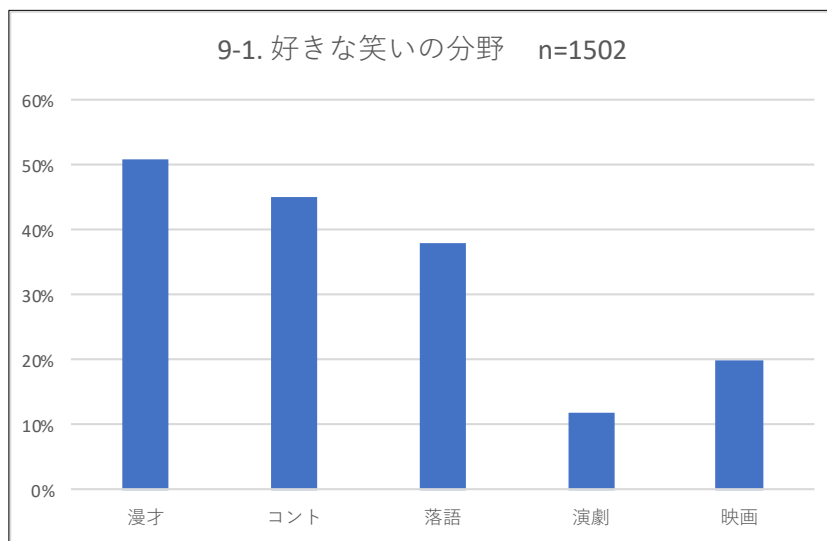
愛、当たり前、意外(性)、生きがい、イグノーベル賞、意識してするものでない、一日の始まり、嘘、大阪・上方、お休み、家族、我慢しない、神様からの贈り物、かわいい、気遣い、空気、芸術、声を出して、心の運動、心の顔、心の鏡、心の支え、心の玉手箱、言葉の端々に、最強、仕事、自分で創るもの、自分の魅力、冗談、笑点、職場の仲間、シワ、身心脱落、人生の始まり、人徳、ただ・無料、疲れる、どうしたら良いもんか、どうすれば笑えるのか、トランプ、人間だけのもの、腹が痛くなる、腹が空く、反射神経・瞬発力、判断力、人を美しくする、孫から、満腹感、無心、ワールドカップ、笑える環境で生まれる。

(9) 「好きな笑いの分野」

Q9 「あなたの好きな笑いの分野は何ですか」(複数回答可能)という問いに対する全体の回答は以下ようになった。漫才、コント、落語の順で順位が高かった。

表 9-1

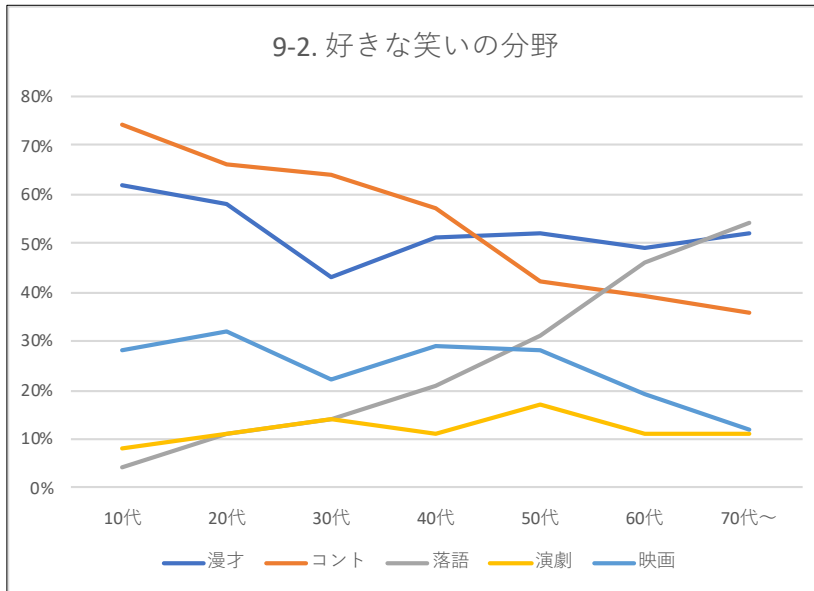
	漫才	コント	落語	演劇	映画
人数 (%)	768 (51%)	672 (45%)	575 (38%)	173 (12%)	300 (20%)



次に、年代別に好きな笑いの分野を示したのが以下の表 9-2 である。漫才は 30 代でやや数値が低いものの、各年代で支持されている。対照的だったのはコントと落語であった。コントは年代層が上がるにしたがって人気下がっていくが、落語は年齢層の上昇にともなって人気が上がっていく。こうした傾向は前回の調査にも表れていたが、今回の調査では、その傾向がより鮮明に表れた結果となった。

表 9-2

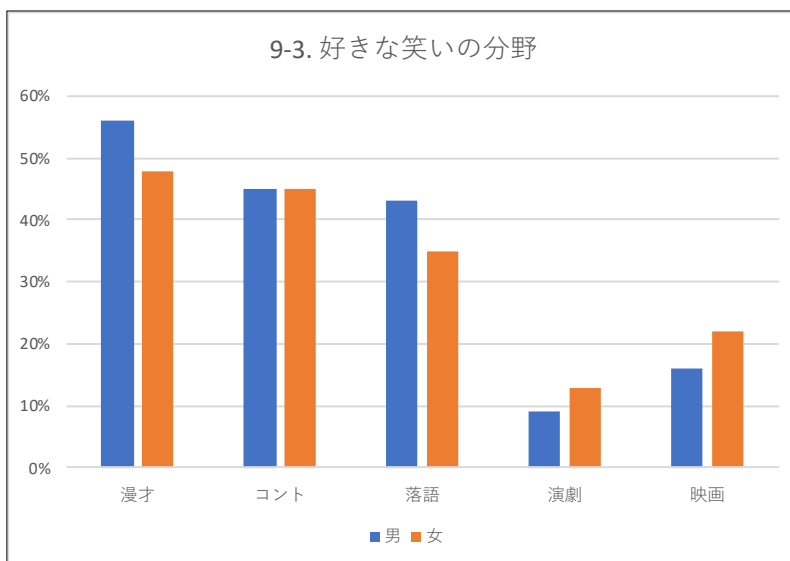
	漫才	コント	落語	演劇	映画
10 代	61 (62%)	73 (74%)	4 (4%)	8 (8%)	28 (28%)
20 代	42 (58%)	48 (66%)	8 (11%)	8 (11%)	23 (32%)
30 代	41 (43%)	61 (64%)	13 (14%)	13 (14%)	21 (22%)
40 代	56 (51%)	62 (57%)	23 (21%)	12 (11%)	32 (29%)
50 代	92 (52%)	75 (42%)	54 (31%)	30 (17%)	50 (28%)
60 代	227 (49%)	180 (39%)	214 (46%)	50 (11%)	88 (19%)
70 代～	249 (52%)	173 (36%)	259 (54%)	52 (11%)	58 (12%)



次に、好きな笑いの分野を男女別に示す（表 9-3）。漫才と落語において、男性が女性よりも、それぞれ 8 ポイント高くなっているのに対して、映画では 6 ポイント、演劇では 4 ポイント、それぞれ女性の方が高い数値になっている。

表 9-3

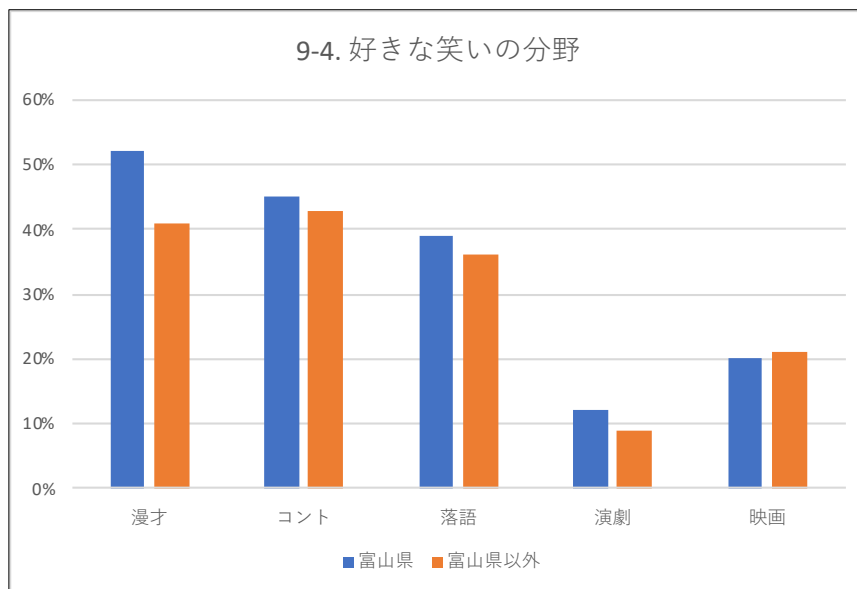
	漫才	コント	落語	演劇	映画
男	324 (56%)	256 (45%)	246 (43%)	53 (9%)	93 (16%)
女	444 (48%)	416 (45%)	329 (35%)	120 (13%)	207 (22%)



次に、出身別に好きな笑いの分野を示した結果が以下の表 9-4 である。漫才において、富山県出身者が県外出身者よりも 11 ポイント高い数値になっていることが特徴的である。

表 9-4

	漫才	コント	落語	演劇	映画
富山県	700 (52%)	608 (45%)	519 (39%)	156 (12%)	268 (20%)
富山県以外	59 (41%)	61 (43%)	51 (36%)	13 (9%)	30 (21%)



Q9 「好きな笑いの分野」の自由記述である「その他」を以下に挙げる。()内は回答者数で数の多い順に列挙。同数の場合は五十音順。

人との会話(33)、バラエティ番組(10)、動物の仕草(7)、トーク番組(6)、友人との会話(6)、歌・音楽(5)、日常生活(5)、孫との会話・孫の言動(5)、子どもとの会話・子どもの言動(4)、本(4)、アニメ・マンガ(3)、大喜利(2)、家族との会話・家族の言動(2)、川柳(2)、動画(2)、ドキュメンタリー(2)、モノマネ(2)。

以下は回答数が1名。五十音順に列挙する。

アイドル、クイズ番組、ゲーム、コンサート、洒落言葉、新聞、ツイッター、テレビ英会話、ドッキリ番組、ドラマ、人間感情の描写、B級事件、ブログ、マジック、漫談、レクリエーションスポーツ、笑いヨガ。

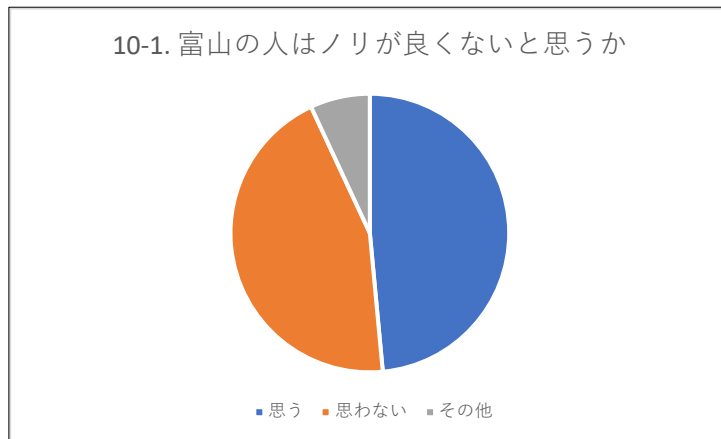
(10) 「富山の人にはノリが良くないと思うか」

Q10 「富山の人にはノリが良くないという意見について、あなたはと思うか」という問いに対する全体の回答結果は以下の通りである(表 10-1)。「その他」は、「無回答、あるいはどちらでもない」というもの。全体の約半数が「そう思う」と回答している。この結果は、「そう思う」の回答率が50%だった前回の調査とほぼ同じとなった。

表 10-1

	思う	思わない	その他

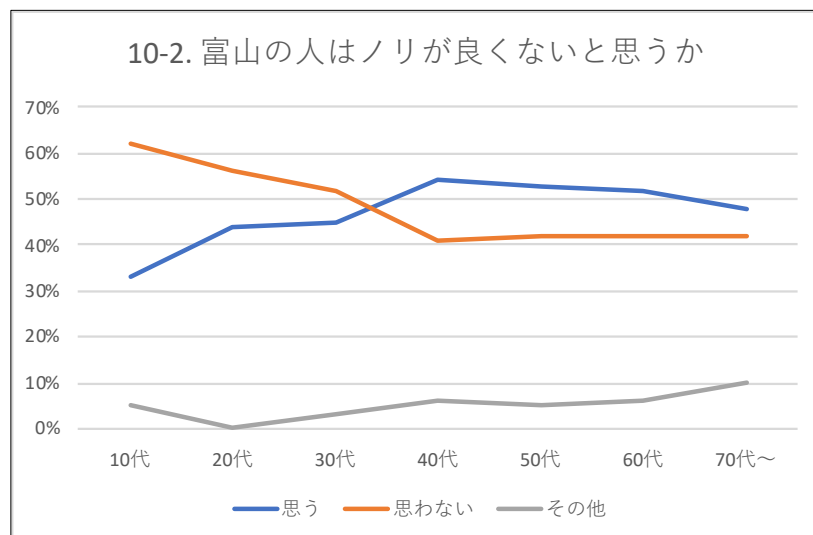
人数 (%)	719 (49%)	656 (45%)	99 (7%)
--------	-----------	-----------	---------



年代別に回答結果を示すと以下の通りである（表 10-2）。「そう思う」という回答は、10代が最も低く、10代から年代が上がるにしたがって「そう思う」回答が40代まで上昇していき、それ以上の年代はだいたい同じような数値になっている。一方、「そう思わない」という回答は、10代で最も高く、10代から年代が上がるにしたがって「そう思わない」回答が40代まで下がっていき、それ以上の年代はほぼ同じ数値である。

表 10-2

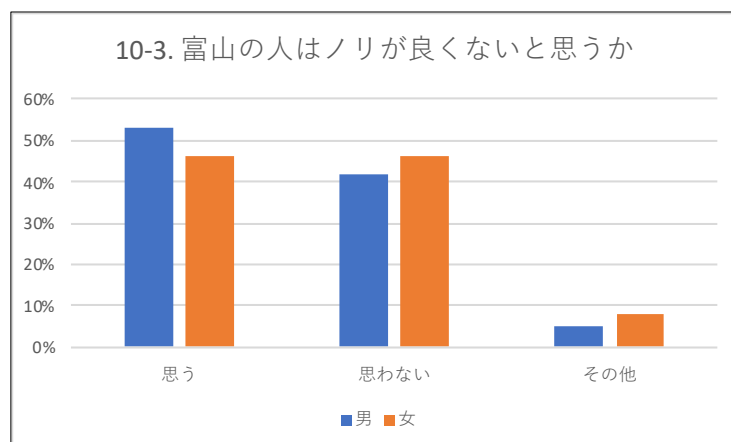
	思う	思わない	その他
10代	33 (33%)	61 (62%)	5 (5%)
20代	32 (44%)	41 (56%)	0 (0%)
30代	42 (45%)	48 (52%)	3 (3%)
40代	57 (54%)	43 (41%)	6 (6%)
50代	89 (53%)	71 (42%)	8 (5%)
60代	236 (52%)	193 (42%)	27(6%)
70代～	230 (48%)	199 (42%)	50 (10%)



次に、男女別の回答を以下に示す（表 10-3）。「そう思う」と回答した男性の比率が、女性に比べて 7 ポイント高いのが特徴的である。前回の調査でも、「そう思う」と回答した男性が 54%、女性が 49%だったので、男性の方が女性より「そう思う」回答率が高いことは変わっていない。また、「そう思わない」という回答については、前回の調査では男性が 36%、女性が 43%だったので、今回は男女ともに「そう思わない」回答率が上昇しており、特に男性では 6 ポイント上昇した結果になっている。

表 10-3

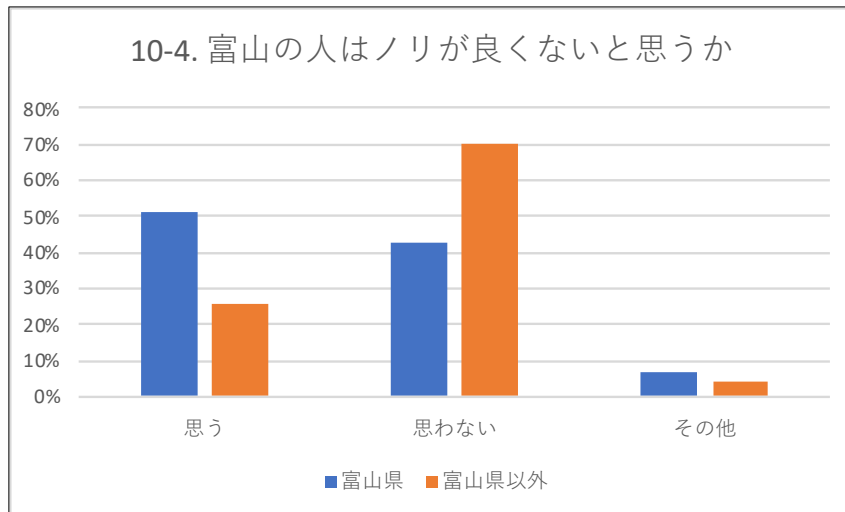
	思う	思わない	その他
男	293 (53%)	234 (42%)	25(5%)
女	426 (46%)	422 (46%)	74 (8%)



次に、出身別の回答結果を以下に示す（表 10-4）。富山県出身者の約半数が「そう思う」と回答しているのに対して、県外出身者で「そう思う」と回答しているのは 26%にとどまり、逆に「そう思わない」と回答している県外出身者は 70%に達している。

表 10-4

	思う	思わない	その他
富山県	683 (51%)	571 (43%)	89 (7%)
富山県以外	30 (26%)	81 (70%)	5 (4%)



Q10「富山の人はノリが良くない」という意見について、「そう思う理由」(自由記述)を以下に挙げる。()内は回答者数で、数の多い順。同数の場合は五十音順。

まじめ(過ぎる)・固い(135)、恥ずかしがり・内気(42)、人の目を気にする・人見知り(32)、関西や他県と比べて(24)、気候風土(20)、閉鎖的(20)、暗い・陰気(14)、反応が少ない・鈍い(14)、県民性(13)、人前で感情を表さない・表情が乏しい(13)、コンサート会場・試合会場での反応(11)、おとなしい(10)、自分がそうである(10)、控えめ・消極的・引っ込み思案(9)、なんとなく(8)、慎重(7)、保守的(7)、勤勉(5)、冗談を言わない(5)、ユーモアがない・ユーモアを美德としない(5)、心の余裕がない(4)、否定的・批判的(4)、奥深い・奥ゆかしい・上品(3)、家庭環境(3)、ノリの良い人を知らない(3)、ノルまで時間がかかる(3)、遊び心が不足(2)、家の内外で態度が違う(2)、気を遣いすぎる(2)、周りに左右されやすい(2)、用心深い(2)。

以下は回答数が1名の回答。五十音順。

おもしろいことが少ない、気配りが足りない、コミュニケーション不足、冷めている、自分を笑いのネタにしない、地味、しゃべりすぎる、初対面でよそよそしい、すぐに言葉が返ってこない、精神的に自立していない、そう聞いたことがある、他人に無関心、日常生活に満足、理知的・理屈っぽい、若者の活動が少ない。

Q10「富山の人はノリが良くない」という意見について、「そう思わない理由」(自由記述)を以下に挙げる。()内は回答者数で、数の多い順。同数の場合は五十音順。

自分の周りの人はノリが良い(82)、個人によって違う(47)、おもしろい人・ノリの良い人は多い(23)、全国的に悪くない・普通(11)、恥ずかしがりなだけ(8)、他県と比較できない(6)、時と場合による(6)、表現はうまくないがノリはいい(6)、普段そう感じたことはない(6)、真面目・勤勉なだけ(5)、ライブや演芸場でのノリは良い(5)、奥ゆかしい・控え目なだけ(4)、自分

はノリが良い(4)、昔はそうだったが今はそうでもない(4)、笑う時は笑う(4)、気心が知れば楽しく会話する(3)、ノリの良さとは幅広いから(3)、会話の相手次第(2)、関西人がすごいだけ(2)、ノリの良い言い回しがある(2)、ノリの良し悪しの定義がわからない(2)、ノル機会が少ないだけ(2)、話好き(2)、反応が遅いだけ・ノリが遅いだけ(2)。

以下は回答数が1名の回答。五十音順。

明るい話が好き、受け答えに笑い、オバさんはノリが良い、固いだけ、関西寄りだから、自然体でよい、地味なだけ、少人数で笑う、人生を楽しんでいる、スポーツのノリは良い、想像力が豊か、地域差がなくなってきた、仲間を作る、何でも興味がある、なんとなく、ノリのタイミングが違う、人懐っこい、人は皆同じ、前向きに考える、盛り上げようと気遣う、理性的。

次に、Q10「富山の人はノリが良くない」という意見について、無回答あるいはどちらでもないという回答した人の中で、理由のみが記載されていたものを紹介する。()内は回答者数で、数の多い順。

個人によって違う(7)、真面目・正直(3)。

以下は回答数が1名の回答。五十音順。

おっとりしている、会話にアクセントがほしい、気心が知れば楽しく会話する、富山の人は普通、場に応じて、周りの人による、用心深い、若い人はノリが良い、私はノル。

(11)「最近、一番笑いしたこと」

最後の質問事項として、自由記述である Q11「最近、一番大笑いしたことはどんなことでしたか」の回答結果を以下に挙げる。()内は回答者数で、数の多い順。同数の場合は五十音順。

テレビを見て(120)、(ひ)孫との会話・(ひ)孫の言動(110)、友人との会話・友人の言動(101)、子どもとの会話・子どもの言動(96)、思い出せない・わからない(61)、(あまり・特に)ない(50)、家族との会話・家族の言動(41)、人との会話(30)、夫婦の会話、夫・妻の言動(28)、自分の失敗・能力低下(25)、職場での会話や言動(25)、(立川志の輔の)落語(20)、「笑点」を見て(19)、ビデオ・DVD・動画を見て(18)、芸人の芸を見て(16)、社会の出来事(15)、旅行先で(15)、(レクリエーション)スポーツで(12)、講演で(11)、他人の失敗・勘違い(11)、勘違い・言い間違い(9)、世間話・たわいない会話(9)、友人のギャグ・モノマネ・芸(9)、学校の授業・学外研修・部活で(7)、酒席・パーティー・食事会で(7)、何人か集まって(6)、ゴルフのプレーで(5)、地域のイベント(5)、笑いヨガ(5)、猫の仕草(4)、愛犬の仕草(3)、映画を見て(3)、おもしろい言葉に出会って(3)、自分の写真を見て(3)、下ネタ、下品な話(3)、動物の仕草(3)、ペットと遊んで(3)、アニメ・マンガ(2)、演芸場・コンサートで(2)、カルチャースクールで(2)、高齢者との交流(2)、自分の見た夢で(2)、小学校・孫の運動会で(2)、他人の表情や言動(2)、ちょっとしたこと(2)、(友人と)ゲーム(2)、吉本新喜劇(2)。

以下に回答数が1名の回答を挙げる。五十音順。

アイドルとの交流、赤ちゃんの仕草、男と女の話、彼(女)との会話、カラオケで、ご近所づきあい、静かな会場で変な音、自分で作り笑い、心配事がなくなったとき、スマホの操作で、年賀状・ハガキで、方言で、本を読んで、ラジオで。

4. まとめ・考察

今回アンケートにご協力いただいた回答者の特徴として、60代、70代以上がそれぞれ全体の約3割を占めており年齢層が高いこと、男女比はおおよそ4:6の割合で女性の回答者が多かったこと、また回答者の約9割は富山県出身者であることが挙げられる。

以下、個々の質問項目に対する結果をまとめて紹介する。

Q4「あなたは日頃、よく笑う方ですか」という質問に対して、全体の約7割は、日頃よく笑うと回答している。

年代別では、10代で最も高く、年代が進むごとに数値が低くなる傾向があり、前回の調査と同じ結果となった。

日頃よく笑うかを男女別に見ると、今回の調査でも、日頃よく笑うと回答した女性の割合が、男性よりも高い結果となった。前回の調査では10ポイントだった差が、今回では17ポイントと、さらに差が大きくなる結果となった。

出身別では、富山県外出身の方が、日頃よく笑うと回答している割合は、富山県出身者に比べて5ポイント高い結果となった。

Q5「この3日間ほどの間で、あなたはだいたい何回ぐらい笑いましたか」という問いに対しては、10回以上と回答した人が最も多く、約5割(49%)を占めている。前回の調査では53%だったので、今回は4ポイント下がった。

年代別に見ると、10回以上笑ったと回答した人の割合は、10代が非常に高く、年代が上がるにしたがって低くなっていく。70代以上では36%と低く、前回の調査に比べても7ポイント下がった。人生の終盤を迎えて笑う機会が減っているのだろうか、それとも笑っていること自体を忘れてしまうことが多くなるのだろうか。

男女別では、10回以上では、女性が男性よりも12ポイント高く、3~1回では男性が女性よりも12ポイント高くなっており、日頃女性の方が男性よりよく笑うという結果がここにも表れる結果となった。

笑う回数を出身別に見た場合、10回以上については、富山県以外の出身者が、富山県出身者に比べて11ポイント高く、3~1回については富山県出身者が、富山県以外の出身者に比べて6ポイント高かった。

Q6「笑うためにあなたがよく利用するもの」については、「人との会話」が82%と最も多く、次に「テレビ」が75%と多い。この2つがこの順位で突出して高いことは前回の調査と同じだった。今回新たに選択肢として加えた「パソコン」と「スマホ」については、パソコンが5%、スマホが11%と、全体としては高くない結果となった。

年代別に見ると、「人との会話」と「テレビ」は各年代において高い数値となっている。「スマホ」の利用は10代と20代で突出して高く、一方で「パソコン」の利用は各年代で高くなかった。

男女別では、「人との会話」において女性が男性よりも10ポイント高く、「パソコン」は男性が女性よりも4ポイント高い結果となっている。

出身地にかかわる結果では、「テレビ」について富山県出身者が、県外出身者に比べて10ポイント高い点が特徴的だった。

「笑うためによく利用するもの」の自由記述では、「ラジオ」と「孫との交流」という回答が多く見られ、後者はアンケート回答者に高齢者が多いことを反映していた。

自由記述としてのQ7「好きなお笑い芸人や喜劇俳優」では、テレビなどでの露出度の高い芸人や俳優の回答数が多いのは前回の調査結果と同様だった。

富山県出身の複数の芸人が上位のランキングに位置しており、この傾向は前回に比べ、より顕著になった。また、前回の調査にはなく、今回の調査で2名以上の回答があった芸人や俳優の名前が多く見られた一方で、前回の調査で名前の挙がっていた芸人が今回は見られないという場合も数多く見られ、お笑いの世界での新陳代謝の激しさをうかがわせる結果となった。

Q8「笑いは・・・」の空所に入れる言葉を自由に記入してもらった質問では、健康・元気・活力・幸せ・明るさ・楽しさ・豊かさ等に関連した回答が多数を占めていた。様々なメディアで伝えられているためだろうか、笑いが心身の健康に良いことはもはや常識となっていることがうかがえた。

Q9「あなたの好きな笑いの分野は何ですか」という問いに対しては、漫才、コント、落語の順で順位が高く、これは前回の調査と同様の結果となった。

年代別に見ると、漫才は各年代で支持されている。コントは年代層が上がるにしたがって人気は下がっていくが、落語は年齢層の上昇とともに人気は上がっていく。この傾向は前回の調査にも表れていたが、今回の調査では、その傾向がより鮮明に表れる結果となった。

男女別に見ると、漫才と落語において、男性が女性よりも、それぞれ8ポイント高くなっているのに対して、映画では6ポイント、演劇では4ポイント、それぞれ女性の方が高い数値になっている。前回の調査でも、男性の落語好き、女性の演劇・映画好きという結果が出ていたので、この点は今回も変わっていない。ただし、漫才に関しては、前回の調査では、男性が48%、女性が50%と、女性の方が少し高かったため、今回は違う結果が出るかたちとなった。

出身別では、漫才について、富山県出身者が県外出身者よりも11ポイント高い数値になっていることが特徴的だった。ただし、前回の調査では、県外出身者の方が9ポイント高かったため、今回は結果が逆になった。

「好きな笑いの分野」の自由記述である「その他」では、「人との会話」が最も多く、次に多い回答がバラエティ番組だった。テレビ番組において、伝統的な演芸に依らないバラエティ番組も多く放送されていることに理由があるのだろう。

Q10「富山の人にはノリが良くないという意見について、あなたはと思うか」という問いに対しては、全体の約半数が「そう思う」と回答しており、「そう思う」の回答率が50%だった前回の調査とほぼ同じ結果となった。

年代別では、「そう思う」という回答率は、10代が最も低く、年代が上がるにしたがって回答率が40代まで上昇していき、それ以上の年代はだいたい同じような数値だった。一方で、「そう思わない」という回答率は、10代で最も高く、年代が上がるにしたがって回答率が40代まで下がっていき、それ以上の年代はほぼ同じ割合だった。「そう思わない」10代の高校生たちは、今回の調査では62%、前回の調査でも全く同じ62%という結果だった。

男女別の回答では、「そう思う」と回答した男性の比率が、女性に比べて7ポイント高いのが特徴的であり、前回の調査とほぼ同様の結果となった。また、「そう思わない」という回答については、前回の調査では男性が36%、女性が43%だったので、今回は男女ともに「そう思わない」回答率が上昇しており、特に男性では6ポイント上昇した結果になった。

出身別では、富山県出身者の約半数が「そう思う」と回答しているのに対して、県外出身者で「そう思う」と回答しているのは26%にとどまり、逆に「そう思わない」と回答している県外出身者は70%に達している。富山県民のノリが良くないという考えを支持するためには、他県民との比較という視点がポイントになってくる。他県民との交流の機会が乏しいと、他に照らして自分を省みることもできない。ノリが良くないという思いは、富山県出身者の思い込みという面があるのかもしれない。

「富山の人にはノリが良くない」と思う理由の自由記述では、「まじめ(過ぎる)・固い」が圧倒的に多く、「関西や他県と比べて」という回答もかなり多く見られた。

一方で、「富山の人にはノリが良くない」とは思わない理由の自由記述では、「自分の周りの人はノリが良い」、「個人によって違う」という回答が最も多く見られた。また、富山県民のノリは「全国的に悪くない・普通」という回答も一定数見られた。

Q11「最近、一番大笑いしたことはどんなことでしたか」(自由記述)の回答では、「テレビを見て」、「(ひ)孫との会話・(ひ)孫の言動」、「友人との会話・友人の言動」、「子どもとの会話・子どもの言動」という回答が特に多く見られた。インターネットが普及して、テレビ以外の媒体に接する機会は増えているものの、笑いについてはまだまだテレビを利用している人が多いこと、また、高齢者にとっては孫との交流が笑いを生む主要な機会になっていることがわかった。

本研究の執筆にあたり、「2. アンケート概要」に掲載した各機関や筆者による講演の受講者の皆様に、アンケートのご協力をいただいたことを改めて感謝申し上げます。